

## 資料：佐世保小6 女児同級生殺害事件は、事件後どのように受けとめられたか？

大河原清\*

(2005年2月7日受理)

Kiyoshi OOKAWARA

A Consideration of how we should React to the Sasebo Elementary  
School Classmate Homicide

## あらまし

本論は、2004年6月1日に長崎県佐世保市立大久保小学校で起こされた、小学6年生女児同級生殺害事件について、事件後、教育現場でどのように受けとめられたのか、特に原因としてどのようなことを想定したのか等を、教員採用試験受験希望学生72名、高校生36名、そして岩手県内の養護教諭80名、教諭44名を対象とする調査結果について述べている。

## 1 教員採用試験受験希望学生の事件への関心の程度と最近の子どもについての捉え方

## 1. 1 教員採用試験受験希望学生の事件への関心の程度

この項で述べる内容は、教員採用試験受験希望学生を対象に、受験対策において教員採用セミナー面接講座を受講するに当たって、事前に提出してもらった「個票」における一つの記入項目として立てた「関心の時事」における列挙した項目についてである。個票を提出した学生数は、72名である。その被験者については表1の通りの構成となる。

表1：被験者（教員採用試験受験希望学生）（2004年06月08日ノ切提出分）

性別	年齢	人数	志望校種
女性 51	昭和58年生	6	小学校 44
	昭和57年生	49	中学校 12
男性 21	昭和56年生	10	高校 6
	昭和55年生	3	養護学校 10
	昭和54年生	2	
	昭和52年生	1	
	昭和48年生	1	

\*岩手大学教育学部

以下に述べる結果は、佐世保小6 女児同級生殺害事件（以下「佐世保小6 事件」と略）発生（2004/6/1）から7日後の6月8日午後13時メ切で提出してもらった教員志望学生の「関心の時事」を整理したものである。「長崎県佐世保市の小学6年生が同級生に殺害された事件」（a 表現）や「長崎県佐世保市立大久保小学校の児童による児童殺傷事件についての情報化や子どもの心の問題」（b 表現）など、直接「長崎県佐世保市立大久保小学6年女児同級生殺害事件」を表現している人数は45名であり、この45名のなかで、さらに（b 表現）に見られる通り「情報化や子どもの心」など、関連記述項目として以下が挙げられている。括弧内は人数。なお、一人で2項目列挙している場合もあり、それぞれ別個にカウントしていることをお断りしておく。

- (1) 「命の教育」（2名）・「命の大切さ」（1名）・「生命尊重」（1名）
- (2) 「心の教育」（2名）・「心の居場所」（1名）・「心の問題」（1名）
- (3) 「子どもと情報化の関係」（1名）・「情報化」（1名）・「インターネット社会の功罪」（1名）・「インターネットの掲示板」（1名）
- (4) 「少年少女の犯罪」（1名）・「犯罪の低年齢化」（2名）
- (5) 「親族・同居人による児童虐待」（1名）
- (6) 「学校の役割」（1名）・「学校現場における教育」（1名）・「教師の子どもの実態把握の程度」（1名）

延べ人数75名の残り30名は、以下の項目を挙げている。

- (1) 「子どものインターネットの利用」（1名）
  - (2) 「少年犯罪」（2名）・「犯罪の低年齢化（2名）・凶悪犯罪の低年齢化（1名）」（小計3名）・「少年犯罪から考える家庭の教育力の低下」（1名）・「犯罪を起こしてしまった子どもの心理的背景」（1名）
  - (3) 「心の教育（1名）・心の教育の在り方（1名）」（小計2名）
  - (4) 「命の大切さ」（1名）
- 
- (5) 「池田小学校児童殺傷事件」（1名）
  - (6) 「児童虐待」（3名）・「児童虐待防止法」（1名）
  - (7) 「集団自殺」（1名）
  - (8) 「イラク情勢（1名）・イラクでの日本人殺害と日本人拉致（1名）」（小計2名）
  - (9) 「民族・宗教対立」（1名）
  - (10) 「市町村合併問題」（2名）
  - (11) 「教育基本法改正」（1名）
  - (12) 「金星の太陽面通過」（1名）
  - (13) 「アテネオリンピック」（1名）
  - (14) 「清原選手の2000本安打」（1名）
  - (15) 「NFL ヨーロッパでの日本人の活躍」（1名）

であった。

以上の通り、75名のうち45名に相当する約60%の学生は、直接「佐世保小6 女児同級生殺害事件」に言及していることが分かる。さらに残り30名の項目を見てみると、佐世保小6 事件に全く無関

係と思われる前記項目の(5)から(15)の人数は16名である。したがって、佐世保小6事件に無関係と思われるこの16名を除外してみると、75名のうち59名が佐世保小6事件に関心を示している人数と解釈できる。つまり、教員採用試験希望者の約79%が、今回の佐世保小6事件に関心を持っていたのではないかと想像できる。

## 1. 2 最近の子供についての捉え方

同時に調べた「最近の子どもについてどう思いますか」の個票の回答を整理すると、以下の通りとなる。主として3年次に教育実習を体験した後の教員の卵の見た最近の子ども像と解釈できる。

**少子化** [小計3] [内訳：少子化(2名)・核家族化(1名)]

**パソコン・テレビゲーム・テレビ** [小計25] [内訳：パソコン〔の普及〕(10名)・ゲーム(6名)・インターネットへの興味(4名)・電子空間が身近なものになった(1名)・携帯電話(2名)・テレビを遅くまで見ている(1名)・パソコンや携帯電話を利用する犯罪に対しての危機感の欠如(1名)]

**情報量** [小計24] [内訳：情報化(2名)・情報化の進展(4名)・情報化の影響(1名)・情報化社会(3名)・科学技術の進歩(1名)・社会の変化、高度化に伴い、良くも悪くも高度に様々なものを使いこなしている(1名)・溢れる情報(5名)・知りたいこと、分からないことがあっても、直ぐに情報が入る(1名)・様々な情報や知識を持っている(1名)・多くの知識を得ている(1名)・必要のないものまで吸収してしまいそう(1名)・子どもの持つ情報の多さと心の発達とがアンバランスになっている(1名)・柔らかい心のうちに良い情報も悪い情報も山のように入り込んできて、混乱している(1名)・仮想世界の中でしか自分を表現したり、自分を見出したりすることができなくなっている子どもが増えている(1名)]

**人間関係の希薄化** [小計19] [内訳：人間関係の希薄化(13名)・地域社会との人間関係のかかわりの希薄さ(1名)・人と関わる機会が減少(2名)・他人との信頼関係をうまく築くことができない(3名)]

**異年齢** [小計4] [内訳：異年齢集団での交流や遊ぶことが少ない(2名)・異年齢集団を作らない(1名)・異年齢同士や大きな集団で外で遊ぶ子は少ない(1名)]

**コミュニケーション能力の低下** [小計26] [内訳：コミュニケーション能力の低下(3名)・直接的・表情でのコミュニケーションが取れない(7名)・言葉で自分の気持ち・本音・思っていることを表現することが苦手(8名)・他人の気持ちを考えるなど、対人関係をうまく築けない(1名)・遊びの中で社会的規範を学ぶ機会が減少(1名)・言葉で伝えることができることでも、暴力が先に出ている(1名)・人と触れ合う機会が少ない(1名)・友達関係で悩んだり、場に応じた行動がとれない(1名)・社会性が育ちにくくなっている(1名)・心と心の触れ合い(1名)・心の中にストレスや悩みを感じている(1名)]

**自然体験・直接体験の減少** [小計11+1] [内訳：直接体験の減少(1名)・自然体験の減少(2名)・自然の物を使って遊ぶ姿を見かけなくなった(1名)・外で遊ぶ機会の減少(3名)・一人で楽しむ遊び(2名)・伸び伸び遊ぶ時間が無い(1名)・ゆとり教育により、余暇活動が上手にできない子どもが増えている(1名)・近所の子や教育実習校の子を見ていると、意外にも外や校庭で遊んでいる子は多い(1名)]

**子どもの良さ** [小計27] [内訳：本質的には、いつの時代も子どもの姿は変わらない(11名)・常に前向きで新しいことを吸収しようとする姿勢がある(2名)・元気がある(2名)・子どもの持つ明

るさや純粹さは失われていない（4名）・礼儀正しく、物事を真剣に取り組む子どもも多い（1名）・何事も恐れず挑戦しようとする好奇心がある（3名）・「分かるようになりたい」「楽しく過ごしたい」「認められたい」という思いは、誰もが持っている（1名）・仲間への思いやりが深い（2名）・総合的な学習の時間などを通して、主体的に実践する力が伸びている（1名）]

**社会・環境の変化** [小計22] [内訳：地球や環境の変化（4名）・社会の変化（1名）・世の中の変化（1名）・子どもによる凶悪事件の頻発（4名）・様々な問題の発生（1名）・子どもの姿が多様化（1名）・多様化の進行（1名）・豊かな時代（2名）・何でも簡単に入手可能（1名）・塾や習い事をやっている子どもが多い（2名）・遊びを取り巻く環境の変化（2名）・遊び方が変化（1名）・戸惑いや悩みの増加（1名）]

**子どもの実態** [小計37] [内訳：じっくり考えることが少なくなった（1名）・実際は未だ子どもで、その子どもの部分を出すことが難しい（1名）・学ぶ意欲の低下（1名）・机に向かっての自学自習能力が低下している（1名）・生きづらくなっている（1名）・おしゃれを意識する子どもが増えている（2名）・夜型の子どもが増えている（1名）・家庭での親の教育力が不足している（1名）・信頼のおける大人を見つけられずに日々を過ごしている子どもが増加（2名）・自分から行動できない・受け身（2名）・わがままで自己中心的（1名）・自分自身の将来のビジョンを持ってない（2名）・子どもの心の暗が取り沙汰される（1名）・素直さが無い（1名）・早熟した言葉を持っている（1名）・精神年齢がやや高くなっている（1名）・大人びている（1名）・一見、大人っぽく見える（1名）・大人っぽい口のきき方をする（1名）・大人への憧れを強く持っている（1名）・大人に近い世界にいる（1名）・背伸びすることを余儀なくされている（1名）・様々な状況に置かれて、表面は様々に歪んでしまっている（1名）・親にあやされているような気がする（1名）・どれがベストか、楽かを模索する（1名）・公の場所で騒ぐ子どもがいる（1名）・我慢のできない子が増えている（1名）・忍耐力が弱い（2名）・困難に対しての免疫が弱い（1名）・表面的には勉強ができる（1名）・実は誰もが自分と関わって欲しいと思っている（1名）・物に対する価値の感覚が低い（1名）]

**その他**（3項目）「内訳の一つ：『普通の子』と表現、この表現は子どもの個性や性格を表面的にしか捉えていない。一つの枠組みに多様な個性、性格の子どもを当てはめることはできない。」（1名）

以上の項目を文章化してみると、最近の子どもの印象は、情報化の進展により社会環境の変化が著しく、パソコンの普及に伴うインターネットを利用する中で、パソコン・ゲームで遊ぶ姿が浮かんてくる。少子化ともかさなり、子どもたちは外や自然の中で遊ぶことも少なくなり、特に人間関係の希薄化は、異年齢との交流も少なく、このことがコミュニケーション能力の低下に見られる通り、人との触れ合い、相手の目を見て話す機会が減少してきている。一方、子どもの良さは本質的には学生の子どもの頃と変わらないと捉えられている学生も13名ほどいる。情報化の影響もあってか、子どもの知識量は豊かで大人びており、おしゃれに関心をもったり、おとなと近い世界にいることが分かる。

## 2 高校生の関心

県内の一つの高校を対象として、今回の佐世保小6事件にかかわる調査をすることができたので、以下に報告する。調査は、いわゆる出前講座の講師をする機会があり、講義終了後、時間を30分ほど延長して調べたものである。本論の項目3の調査と一緒に、「佐世保小6殺害事件について意見をお

聞かせ下さい。1) 初めてニュースを知った時の感想?、2) 今の気持ち、3) 原因は何だったと思いましたが、4) その他、何でも意見を聞かせて下さい」について調べたものである。

被験者である高校生の人数、性別は表2の通りである。

### 1) 「初めてニュースを知った時の感想?」の結果

・えっ!小6が(1名)・え?、と現実ではこんなこと起こらないだろうと思った(1名)・あり得ない(2名)・信じられなかった(1名)・生意気というだけで殺すのは考えられない(1名)・本当のことなのか疑った(1名)・驚いた(6名)・小学生が人を殺害した事に驚いた(2名)・凄いことが起こった(1名)・びっくりした(11名)・恐ろしいと思った(3名)・むごいと思った(1名)・言葉にできないようなショックを受けた(2名)・何をやっているんだ(2名)・え、なんで??(1名)・どうして、殺しちゃったんだろう?(3名)・二人の間に何があった(1名)・カッターナイフで亡くなるとは思えない(1名)・世の中には、度を超える奴がいるんだと思った(1名)・まさか小学6年生の女児がこんなことをするとは思いませんでした(7名)・私は全く知りませんでした、今知った(1名)

### 2) 「今の気持ち」の結果

・加害者の家族がもっと話し合ったり、見てあげていたら、被害者の子は死ななくてよかったのになあ(1名)・先生達も加害者の子の異変に気づいていれば、事件は起きなかったのではと思う(1名)・加害者の女の子は、今どうしているのか(1名)・かわいそうな子だなあ~と思う(1名)・今の10代はムカツクだけで人を簡単に傷つけてしまう(1名)・殺された人はとてもかわいそう(1名)・理由がくだらないことで、おかしい人だ(1名)・本当におかしい事だ(1名)・殺すという事を、もっと特別な感覚にして欲しい(1名)・人が死んだら、取り返しがつかないんだから、もっと命を大切にしたい(1名)・命の価値観を分らない人が多過ぎる(1名)・今でも信じられない(3名)・今だ考えられない(1名)・こういう事件は、あってはいけない(1名)・殺した女の子は、自分のイライラする気持ちをうまくコントロールできなかったからだ(1名)・殺してから謝るなら、最初からしないで欲しい(1名)・忘れていた(1名)・世の中が変わってきた(1名)・今の小学生は凄いなあと思った(1名)・こういう事件は無くなって欲しい(1名)・ビックリ(1名)・思い出したくない(1名)・確かに加害者も悪いと思うが、殺させるには被害者にも原因があると思う(1名)・やってはいけない行為だ(1名)・亡くなってしまったのは残念だけれど、児童を殺した生徒はしっかり償って欲しい(1名)・複雑(1名)・まだ子供なのに人を殺すなんて考えられない(1名)・こんな小学生がいるなんて信じられない(1名)・生意気だったと言う気持ちだけが人を殺していいものだろうか(1名)・なんで殺しちゃったのだろう(5名)・人を殺してまでしてしまう理由を知りたい(1名)・何でやったのか、もっと詳しく知りたいです(1名)

### 3) 「原因は何だったと思いましたが」の結果

・親が話してあげなかったから(1名)・それらはゲームの中だけだよと教えない両親(1名)・それを言い聞かせれば、何でもないことを教えない(1名)・両親がもっと責任感を持ち、子供に接すれば、また日本の治安も良くなるし、相手の気持ちを考える人が増えると思う(1名)・親の教育(2名)・親の教育がはっきりしなく、女児が切れやすかった(1名)・親子関係

(1名)・家庭状況(1名)・この新聞を読むと、女兒が怜美ちゃんを殺害した理由が、「態度が生意気だから。」などと、殺害の動機がとても不十分で、二人の仲も悪くはなかったのだから、本当の理由は、別の所に有るのではないか、と思った(1名)・その様な人達に人の命の尊さや大切さや、悲しみを学んで欲しい(1名)・格闘・鉄砲などが出てくるTVゲーム(2名)・ゲームの中では、いくら自分や相手を殺しても、戻ってくる(1名)・嫌がらせ(1名)・何か嫌な事があり、その人に仕返しをしたいと思ったから(1名)・加害者の人はコミュニケーションがうまくできない人だから(1名)・友達関係(6名)・心を開いて話し合える友が少なかった(1名)・相手が気に入らなかつた(1名)・人と人との関係がうまくいってないからではないか(1名)・親しい仲での擦れ違い(1名)・同級生間のトラブル(1名)・何が理由にしろ最近では、ちょっとした理由で殺害を実行する人達が増えて来ている(1名)・容疑者の精神状態が悪い状態だったから(1名)・瞬間的な怒り(1名)・今の子供は短気だから(1名)・自分の思っていることを相手に表現できない(1名)・殺人に興味があったから(1名)・分からない(2名)・理解できない(1名)・環境の悪さ(1名)・今の世の中の流れだ(1名)・殺した人の自己中心的な考え(1名)・安らぎを得る場が少なかったから(1名)・殺した人の心が、幼過ぎる所(1名)・人を傷つけるという事を軽くみていた(1名)

#### 4)「何でも意見を聞かせて下さい」の結果

**殺人は良くない** [内訳：いくら憎くても、嫌なことがあったとしても、人を殺してはいけない(1名)・同級生を殺すとか、本当に有り得ない事が、というより、あっちゃいけないことだ(1名)・自分が少しでも気に入らない事があったからと言って、人を傷つけてはいけない(1名)]

**被害者も悪い** [内訳：加害者だけが悪いのではなく、被害者にも何らかの原因があったのではないか(1名)]

**死について・命** [内訳：死について学習をするべきである(1名)・学校でも、そういう事件について小学生の低学年のうちから話してもらい、「死」に対する考えを深めて欲しい(1名)・命は一つしかないのだから、小さい頃から大切にしていって欲しい(1名)・人の命を奪うことは自分の命も台無しにすることだ(1名)・人の命は大事ということを分かっていたんだろうか?(1名)・小6でこんなことが起こったのは、とても最低だ(1名)]

**被害者について** [内訳：殺された子(家族)は本当にかわいそう(1名)・殺された人の両親のことや、仲の良い友達の事を、深く傷つけているという事に気づいて欲しい(1名)]

**事件** [内訳：今後、このような事件が二度と起こって欲しくない(4名)・近年、このような佐世保小6殺害事件のように、人を簡単に殺すという事件が多発している(3名)・やはり許せない事件だ(2名)・どうしてこんな悲しい事件が起こってしまったのか、私には分かりません(1名)・最近、小学生や中学校と、若い人たちの事件が多いので、かなりビックリしている(1名)・とても残酷な事件だ(3名)・12歳にもなった子が、友達を切り付けるなんて、あり得ない(1名)]

**その他** [内訳：人は一人では生きていけない生物だと分かった(1名)・自分の気持ちを伝えたり、他人の考えを聞いたりして、意志の疎通を行うことで、自分の存在、他人の存在の大切さなどを感じることができると考える(1名)・僕がもし被害者の保護者だったら、凄く怒っていたと思う(1名)]

**小学生殺人** [内訳：小学生でそのような事をして驚きました（7名）・人を殺すというのは、とても勇気があることだ（1名）・このニュースを聞いた時は、ただビックリするだけだった（2名）・そんな小さい子が、そんなことをするなんて信じられなかった（1名）・同じクラスの子供が友達を殺す（1名）・とても考えられない（2名）・世の中、何が起こるか分からない（1名）]

**甘い** [内訳：日本は、正直、罪を犯した人に甘すぎる（1名）・今の時代は、多くなっている（1名）・いくら態度が生意気だったといえど、何も女の子を殺すことは無いだろう（1名）・なぜ人を殺すのか分からないけれど、罪を犯して反省する人が多いので、自覚をもって行動を取った方が良い（1名）・なぜ、友達を殺したのかなあ～（1名）・世の中、あり方というものを、しっかり考えるべきではないか（1名）・今の世の中、身内などを殺すなどというニュースが、よく聞くけど、どうしてそんな事をするのかが、私には分からない（1名）・人を殺しても、何にも喜ばしいと思わないのになあ～（1名）・簡単に人を殺せるなんて、どんな気持ちだったんだろう？（1名）・簡単に人を殺してはいけない（1名）・どんなに憎んでも、殺してはいけない（1名）・友達を一人失う事にもなってしまう（1名）・裏切る友達も悪い（1名）・この頃こういう事件が多くて、人の命を軽く見過ぎているんじゃないかと思うし、いくら幼いからって許せないことだ（1名）・今の時代は、情報など直ぐに集められる（1名）・小さいうちから、いいことも悪い事も知識として身につけてしまっている人じゃないか（1名）・なぜ、生意気だからと言って殺さなければならなかったのか（1名）・他に解決策などはなかったのだろうか（1名）・犯人は普段の生活で何かの影響を受けて、殺人になったのかもしれない（1名）・心がきたないから殺せるのだと思った（1名）]

**コミュニケーション** [内訳：新聞やニュースで見ると、友達関係でのコミュニケーションがうまく行っていないか、自分の意志を相手に伝えられないからだと思います（1名）・いきなり人は殺せないと思う（1名）・一つ一つの小さな事、たとえば、言葉の暴力、それが発展して殺人まで行ってしまったと思った（1名）・僕は殺した犯人が普段の私生活で「死ぬ、うざい、消えろ」などという言葉を使っていて、思えてきた（1名）]

**両親** [内訳：両親がもっと責任感を持ち、子供に接すれば、また日本の治安も良くなるし、相手の気持ちを考える人が増える（1名）・育てる時に、もっと親が大事に育てた方がいい（1名）・育てる時、もっと親の育て方が大事だし、もっとかまってくれたり、好きなことをやらせた方がいいと思う（1名）・そういう子供が居るのには、親のせいもある（1名）・親にも、自分の子供がこの事件が起きる前に何か気づいてあげることができたんじゃないか（1名）]

**大人** [内訳：今の世の中、大人がしっかりしてないから、子供のこのような事件が起こると思う（1名）・子供だけが悪い人じゃなくて、大人の方が、何かするべきだ（1名）]

**先生・誰か** [内訳：誰か話を聞いてあげようとする人はいなかったのか疑問が残る（1名）・それに先生か親が加害者の気持ちの変化のことについて何にも関心が無かった（1名）・なぜこんなことになったのか、先生がなんにもしなかったのではないのか？と思う（1名）・加害者の保護者はどんな人なのか見てみたい（1名）・そういうことを教えてあげていなかった親、先生もいけない（1名）・周りの大人などが気づいてあげていれば、殺人ということにならなかったのではないか（1名）・そういう被害者や加害者の立場の人を出さないようにしてほしい（1名）]

**加害者について** [内訳：何よりも、亡くなった人の夢とか、希望を消してしまったという事を、もっと後悔させた方がいい（1名）・家族も心配すると思うし、加害者の方の親はもっとショッ

クだと思う（1名）・とにかく加害者、被害者どちらもかなり悪い（1名）・加害者児童の両親か、インターネット、メール等がこの事件を起こしてしまったと思うので、よい教育をして欲しい（1名）・加害者の女兒にはしっかり反省してもらいたい（2名）

**映像やチャット** [内訳：社会の、直ぐ殺したりする映像や、チャットとかはよくない（1名）・人を殺すのはとてもおかしい行動だと思うけど、今はテレビやゲームでもそのようなシーンが沢山出てきていて、そのような事にも原因があると思う（1名）・いろんな人はゲームのせいだとか言っているけど、それだけじゃ無いと思う（1名）・最近、ゲームや、そういうのが沢山出てきて、昔では、考えられないようなありえない事件が起こっていて、この事件も、その一つだ（1名）・殺したらゲームとは違って生き返らない訳だ（1名）]

**環境が悪い** [内訳：今の日本の環境は間違っている（1名）・おかしい世の中だ（1名）・環境などもある（1名）・今の時代の流れ、ムカクから直ぐ殺す（1名）]

**一時的な気持ち** [内訳：その子は多分、自分のイライラする気持ちをうまくコントロール出来ずに、そのまま殺人の方に行っちゃったのかもしれない（1名）・原因としては、一時的な気持ちでやってしまったのではないか（1名）]

### 3 5段階評定尺度項目による調査

#### 3. 1 調査対象者

表2に示す通り、A高校生が36名と、B大学生（41名：グループ討論前の調査、45名：グループ討論後の調査）である。

#### 3. 2 アンケート項目の作成

アンケート項目の作成にあたり、岩手県内の学校教諭124名を対象に、自由記述で、今回の事件について記入してもらったものの中から、研究者の方で選択した項目である。はじめから調査しようという意図のもとに自由記述を求めたのではなく、大学の授業の中での話題として取り上げていた事件について、現職の先生方などのように今回の事件を捉えているのだろうかを知りたいという動機から、たまたま県内の先生方を対象として講演依頼を受けていたこともあり、急遽思い立って調べたものである。この自由記述の調査は、平成16（2004）年7月13日に実施したものである。

この間、新聞記事では何人かのカウンセラーをはじめとしてさまざまな意見が取り上げられたり、また読者の「声」の欄にも、一般読者の体験が掲載されるなど、今回の事件が社会的な関心を引き起こしていることが理解される。そうした記事を講義の中で取り上げ話し合いをすすめる中で、受講者の一人の学生が今回の事件についてレポートを提出してくれたので、その意見に、研究者の方で、広告の階段モデル（Lavidge & Steiner 1961）に基づいて、憎しみが殺人までにどのように至ったかを取り上げたりしていたので、その話し合いの結果（図1）を、7月13日の講演会の内容の一つとして提示し、お集まりいただいた先生方の意見を自由記述の形で頂戴したもののの中から、アンケート項目として選択したものである。



### 3. 3 調査方法

表2において、A高校生では、2で前述した自由記述と合わせて、出前講座の終わりの時間30分に調査したものである。B大学生では、2日間の集中講義の中で、講義内容で取り上げた共同作業（コラボレーション）とのかかわりで、一つのテーマとして今回の佐世保小6事件を取り上げ、図1に示す「広告の階段モデルから見た佐世保小6女児同級生殺害事件の殺害過程」および学生の「佐世保小6女子殺傷事件について」（末尾資料を参照）とをいくつかの新聞記事と共に、最初のアンケート調査の後に説明したものである。

図1 広告の階段モデルから見た佐世保小6女児同級生殺害事件の殺害過程

(Lavidge, R.J. & G.A. Steiner 1961 を参照)

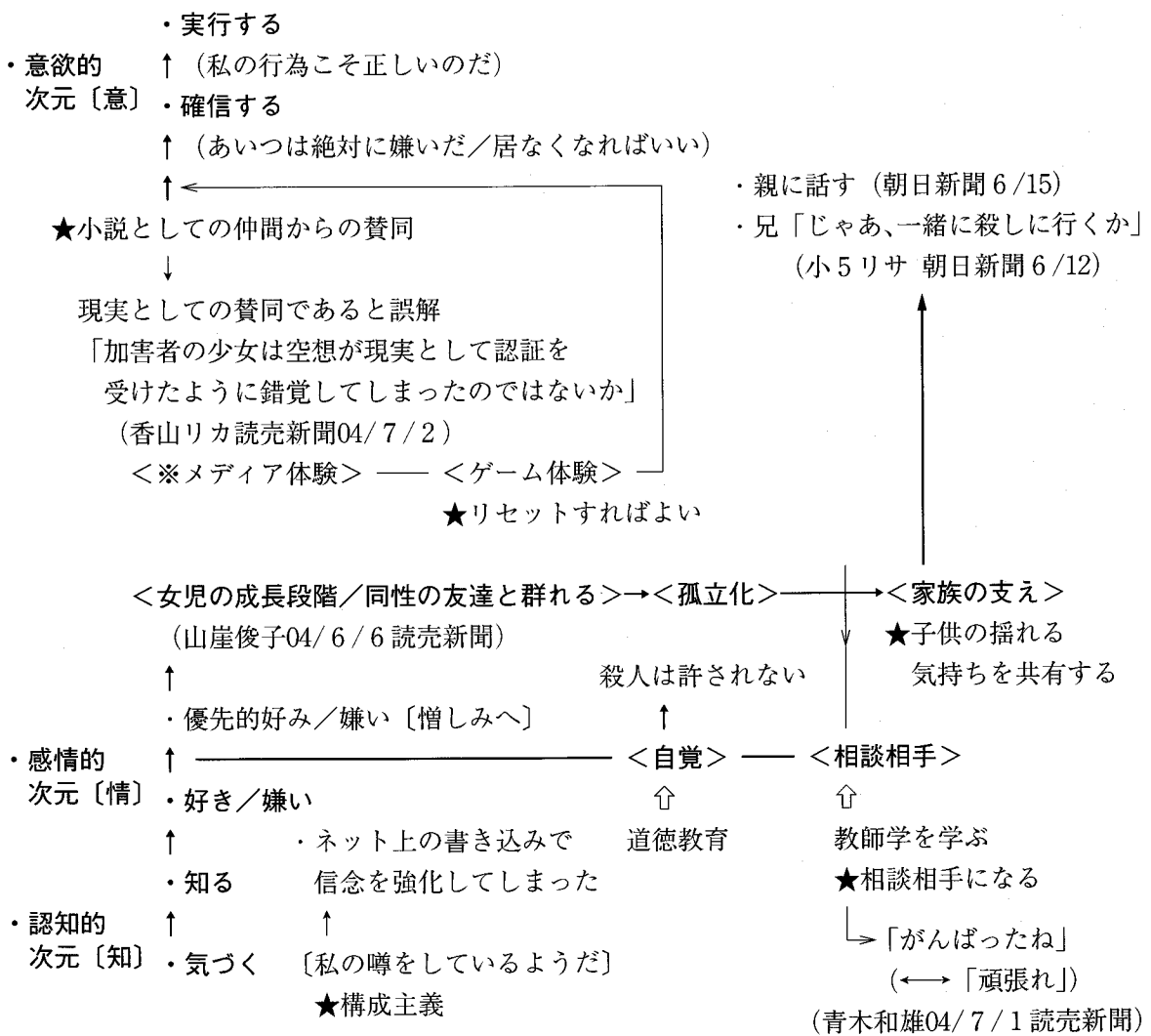


図1は広告の階段モデル (Lavidge & Steiner 1961) を借用して、今回の佐世保小6事件の殺害過程を考えたものである。はじめにお断りしておきたいことは、この階段モデルは、広告を見た読者が商品を購入するに至る過程を想定しているもので、今回の事件を対象に適用してもよいかどうかの問題があることである。広告の階段モデルは、「知情意」の3段階が想定されており、「知」は認知

的段階で、広告に気づく場合を指している。女兒は「私のことを噂しているようだ」と気づく段階である。次の「情」は感情的次元をさしており、先に見た・感づいた広告の商品に対して、好き嫌いの感情を抱く段階である。女兒は「ネット上での書き込みを知り、噂が本当であった」と確信し、嫌いだという感情を強化した段階である。この段階において、女兒がもし相談相手がいたり、道徳教育の結果殺人は許されないとする自覚があれば、次の殺人の段階までには至らなかったかもしれない。

最後の次元が「意」という意欲的次元を指しており、広告商品の場合には、実際に商品を購入する行為の段階である。女兒の場合には、相手が居なくなればよいと結論して実際に殺人行為に進んでしまった段階である。

感情的次元から意欲的次元に進む間に、バトル・ロワイアルの映像などのメディア体験やりセットすれば、死人は生き返り何度もゲームを続行できるといったゲーム体験の強化がなければ、実際に殺人行為までは進まなかったのか、あるいは、この女兒特有な障害のために進んでしまったのか、疑問が残るところである。添付資料の学生の意見「加害者の女の子自身の『基本となる考え』が普通とは大きくずれていた」が、それである。

### 3. 4 調査結果 (表 2)

表 2 は、高校生の平均値の大小順にソートした結果を中心に示してある。

表 2：佐世保小 6 女兒同級生殺害事件のアンケート調査結果

◎ 5 非常にその通りである ○ 4 その通りである 3 普通／どちらでもない × 2 あまりそう思わない × 1 全然そのように思わない	2004年10月 19日実施		2004年7月 28日実施		2004年8月 23日提出	
			話し合い前		話し合い後	
	A 高校生 36人不明06 男19 女11		B 大学生 41人 男39 女02		B 大学生 45人 男42 女03	
質問項目	m	SD	m	SD	m	SD
37 殺人まで、いとも簡単に実行してしまうところが、とても理解に苦しむ -----	4.4	0.8	3.6	1.4	3.6	1.3
52 心を育てるためには、身近な大人が良いモデルにならなければならない -----	4.4	0.9	4.1	0.9	4.2	0.7
8 人間の死を軽く考えているのではないだろうか -----	4.3	1.1	3.4	1.2	3.5	1.1
1 今回の事件を知って、かなりショックを受けた -----	4.3	0.9	3.6	1.3	3.8	1.1
27 このような事件を模倣する子どもが増えるのではないか -----	4.2	0.9	3.1	1.2	3	1.2
29 どこかのグループに属することで安心感を得ている年頃である -----	4.2	0.9	4.1	0.9	4.2	0.8
62 家族の思いやりが無かったのではないだろうか -----	4.2	0.9	3.5	0.9	3.7	1
41 顔を突き合わせての児童同士の生の声による話し合いが少ないのではないか -----	4.1	0.9	3.8	1	3.9	1

63	テレビドラマの影響（人は死ぬということが分かっているのに、実は分かっていないということ、無意識に植えつけられてきたのではないだろうか） 〔①アニメでダイナマイトが爆発したって、ボロボロの服を着ていて、生きている。 ②戦争ものの場合、自分は死なない側にいる ③戦争体験を語る人になることはあっても、その話の中で自分が死んでいるとは思わない〕 この少女も「あってあやまりたい」と発言しているが、やっぱり人が死ぬとは分かっているが、分かっていないのである」	4.1 ★	1.1	3.4	1.1	3.3	1.2
3	環境による影響があったと思う	4.1 ★	1.2	3.8	1.2	4.3 ★	0.8
49	善悪の判断よりも、怒りや憎しみの感情が勝ってしまったのではないだろうか	4.1 ★	1	3.9	0.9	3.9	0.9
26	友人の裏切りがネット上で他人に暴露されたのを、我慢できなかったのではないだろうか	4.1 ★	1	3.9	0.7	3.7	0.9
21	ちょっとした大人（教師）の配慮があれば加害者を救えたのではないだろうか	4.1 ★	1.1	3.2	0.9	3.5	1.1
31	少なくとも、話を聞いてあげる人が周囲にいたら、事件は起こらなかったのではないだろうか	4.1 ★	1.1	3.7	0.9	4 ★	1
61	甘える所が無かったのではないだろうか	4.1 ★	1	3.6	0.9	3.8	0.9
46	過去の似たような事件についての情報開示が必要だ	4	0.9	3.4	1.2	3.7	1
66	自分の居場所が無かったのではないか	4 ★	1	3.6	0.9	4.1 ★	0.7
64	孤独の中で思い込みを深めてしまったのではないか	3.9	0.9	3.8	0.9	3.9	0.8
60	加害者の親は、バスケット部をやめさせる時や、塾に行かせる時に、子どもの気持ちに耳を傾けず、一方的に押しつけたのではないだろうか	3.9	1	3.8	1	3.8	1
12	加害者は自分の心を家庭において充分受け止めてもらえたという経験が少なかったのではないだろうか	3.9	1.1	3.5	1	3.8	1
33	今の子どもたちは友人と群れるが、ちょっとした事でそれが壊れやすくてきているのではないだろうか	3.9	1.1	3.7	0.9	3.6	1
20	加害者に別に友達や居場所があれば、殺人にまで至らなかったのではないだろうか	3.9	0.9	3.7	1	4.2 ★	0.8
11	今回の事件は、加害者が家族の中で普通に話し合える仲ならば、起こらなかったのではないだろうか	3.9	1.2	3.4	1.1	3.9	1
25	信頼していた友人に裏切られたことで、恨みが爆発したのではないだろうか	3.8	1	3.8	0.7	3.5	1

69	死に立ち会う体験が少ない	3.8	1.3	3.7	1.1	3.8	0.9
22	ネット上での表現に対する配慮やマナーが不足していたのではないだろうか	3.8	1.1	3.8	1.2	3.6	1.1
7	何度もテレビ番組などで死ぬ場面を見聞していると、死ぬことに対してマヒしてしまうのではないだろうか	3.8	1.1	2.5	1.3	2.9	1.2
70	(日本語ではためらうようなことも、英語だとネーティブほどには微妙なニュアンスの違いを知らずに、気楽に表現してしまうように)「メール」「チャット」の、いわば新しい表現方法のために、相手がどのように受け取るかを十分に配慮できず、無意識に相手を傷つける表現になっていたのではないだろうか	3.8	1	4	0.9	3.8	0.9
59	(58に続く) その裏切りが、絶望となり、相手への憎しみとなり、正常な神経ではいられない日々となり、殺すという短絡的な行動になったと思う	3.8	1	3.3	0.9	3.4	1.1
23	娘の生育歴が深くかかわっているのではないだろうか	3.7	1.2	3.5	1.1	3.7	1.1
30	どうでもいいと感ずる相手ならば、殺そうとする感情は起きないのではないだろうか	3.7	1.3	3.5	1.2	3.4	1.1
48	誰でも持っているデリケートな指摘されたくない部分にダメージをくらってしまったために、その解消法として、殺人を侵してしまったのではないか	3.7	1.1	3.4	0.9	3.2	1.1
55	加害者の娘が特別な子どもだとは思えない	3.7	1.3	3.7	1	3.6	1.1
18	担任の教師は加害者の娘の変化のサインを見落としていたのではないだろうか	3.7	1	3.1	1	3.3	1.1
13	加害者は、誰にも理解してもらえない、寂しさに気づいてもらえなくて、裏切られる心配のないバーチャルな世界に居場所を作り、顔の見えないネットの世界へとハマりこんでしまったのではないだろうか	3.7	1.2	3.2	1.2	3.2	1
51	乳幼児からの愛着部分に少し不足があったのではないだろうか	3.6	0.9	3.5	0.9	3.7	0.9
47	この事件は氷山の一角であろう	3.6	1.2	3.6	1	3.6	1
14	怒りを殺人という行動で示すことが、加害者が生きているという実感を得るための手段となってしまったのではないだろうか	3.6	1.2	2.4	1	2.5	1
24	加害者の娘は、病的なまでにバランスを欠いていたのではないだろうか	3.6	1	3.2	1.2	3.7	0.8
42	生まれてからずっとゲームをする環境の中で育ってきた影響があったのではないか	3.6	1.2	3	1.2	2.9	1.2

40	「メール」「チャット」の影響が大きい	3.6	1.2	3.5	1.1	3.1	1.2
39	加害者の殺意は幼児的でもっと単純なものに近いものと思われる(38に続いて)	3.6	1	3.3	1	3	1.4
38	大人が怒りのために殺意を抱くのは、今回の加害者のとは違うのではないだろうか	3.5	1.3	3	1.3	3.1	1.2
65	友人に対する愛情や独占欲が歪んで現れたように感ずる(あの世に連れて行って、自分だけのものにしたかったのではないか)	3.5	1.1	3.2	1.2	3	1.1
28	自分に危害を加える者に対して、やり返したいという気持ちを理解できる	3.5	1.2	4	0.8	4	0.8
50	ゲームはバーチャル・リアリティなものが多く出回っており、長時間やっていると、現実との区別が麻痺(マヒ)してしまうのではないだろうか	3.5	1.3	2.8	1.1	2.7	1.1
45	死ぬと、本当にこの世からいなくなってしまうという認識が乏しかったのではないだろうか	3.4	1.3	3	1.2	3.3	1.2
32	テレビや新聞を見ていると、加害者のフォローばかりに話題が集中し過ぎているのではないだろうか	3.4	1.1	3.4	1	3.1	1
58	加害者には友達が無く、被害者を絶対唯一の友達だと信じていたと思う	3.4	1.3	3	0.9	3.1	1.1
19	今回、養護教諭が新聞で出ていなかったのは、不思議に思った(救急処置や救急車が要請された後の対応において)	3.4	1.2	3	1.1	3	1
16	加害者も被害者もどちらもかわいそうだ	3.3	1.5	3.3	1.3	3.5	1.2
34	殺す行動はすごい(すごく勇気がある)と思った	3.3	1.7	2.3	1.3	2.8	1.4
5	DVDや映画やテレビ番組の影響が強かったのではないかと思う	3.2	1.4	2.8	1.2	2.8	1.2
4	加害者の女児のみを責める気持ちになれない	3.1	1.2	3.6	1	3.6	1
10	加害者は学校でも孤独で一人ぼっちだと感じていたのではないか	3.1	1.3	3.1	0.9	3.9	0.9
67	もし私が加害者の親なら、生きてはゆけない(死んでお詫びをしたい)	3.1	1.3	2.8	1.3	2.4	1.2
15	仲が良かったからこそ、憎しみが生まれ、殺人に及んだのではないだろうか	3	1.4	3	1.2	3.4	1.2
6	テレビやゲームのバーチャルの世界を、現実と誤解したのではないだろうか	3	1.3	2.5	1.2	2.5	1.1
54	したがって、生活経験が少なく、バーチャル世界で生きることしかなし得ないと、現実とバーチャルとの境界が曖昧になるのではないだろうか	3	1.2	2.9	1.1	2.7	1.1

17	加害者は極刑にすべきだ	2.8	1.3	2.2	1.1	1.9	0.8
2	どこでも起こり得る事件であると感じた	2.8	1.5	3.5	1.3	3.7	1.1
56	バトルロワイアルの映像に洗脳されてしまったのではないかと	2.8	1.4	2.5	1.1	2.4	1.2
44	ゲームに慣れて、リセットすれば生き返ると信じていたのではないかと	2.7	1.3	2.1	1	2.1	1.2
36	自分にはいやな奴は死んでもかまわないと思う時があった	2.7	1.4	3.2	1.5	3.2	1.3
43	ゲームに熱中するとスカーとする	2.6	1.3	2.8	1.1	2.8	1.1
9	ゲームで死人が出てもしリセットすれば生き返るので、生身の人間もすぐに生き返ると思っていたのではないかと	2.6	1.5	2.1	1.2	2.2	1.1
53	単に第三者的にゲームをしていて、うまく行かない時にリセットするのではなく、自らがゲームの中に入り込み、その主人公となって殺し合いをするハンター×ハンターの影響があったのではないかと	2.6	1.3	2.1	0.9	2.1	1
68	加害者になるくらいなら、被害者の方がましである	2.5	1.3	2.3	1.2	2.5	1.2
57	(もしかして) 命を奪うということは、「永遠に私のもの」という意味があったのではないだろうか	2.5	1.3	2.4	1.1	2.4	1
35	自分には自分の友達が殺されても、何とも思わない時があった	1.6	1	1.9	1.1	2	1

注) ★印は4以上を、■印は2.5未満の項目を示す

### 3. 5 調査結果の特徴

- (1) 今回の調査で高校生と大学生に共通している面として、項目52にある「心を育てるためには、身近な大人が良いモデルにならなければならない」の値は4以上の高い値を示していたことである。大人がもっとしっかりして欲しいというメッセージである。
- (2) 項目29「どこかのグループに属することで安心感を得ている年頃である」も高校生と大学生に共通して上位の項目となっている。
- (3) 研究者の方では、教諭を対象とした自由記述で「はっ!」と驚いたものがあった。項目53「単に第三者的にゲームをしていて、うまく行かない時にリセットするのではなく、自らがゲームの中に入り込み、その主人公となって殺し合いをするハンター×ハンターの影響があったのではないかと」である。調査結果は、高校生が2.6, 大学生が2.1と共に低い値であったことである。この結果からは、かならずしもゲームでのリセット体験があるというのは難しいのではないかと感じた。項目44「ゲームに慣れて、リセットすれば生き返ると信じていたのではないかと」も3よ

り低い値である。

- (4) 項目28「自分に危害を加える者に対して、やり返したいという気持ちを理解できる」は大学生で4以上で、話し合いの前後で変化しない値である。

### 3. 6 調査上の問題点

今回調査してみて、被験者によって回答結果は大分異なるのではないかというのが、研究者の第一印象であった。あらためて被験者をどのように選択して調査すべきかが、今回の事件についてはあてはまるような感じがしている。その際、特に注意する必要があるのは、(1) 男女差、(2) 年齢の出来るだけ近い小学生に直接聞いてみる必要がある、これは年齢により理解共感の違いがありそうだと感ずるからである。(3) 今回の調査そのものの位置づけについての検討が必要である。被験者の回答について、被験者が伝聞情報に依拠しているのか、つまりマスコミ情報の影響の結果、このような回答をしていると見るべきなのかどうかという問題がある。

## 研究の経緯

はじめに事件の被害者である御手洗怜美さんに対して、心からご冥福を申し上げます。このような事件が教育現場で二度と起こらないにするために、研究対象として、取り上げました。どうしても何だろうという疑念が、どうしても取り上げずにはいられなかったというのが正直な気持ちです。今回は、内容については不十分であることと、今後も継続して研究を進めていく上での、途中経過を報告することで、多数の方々から何らかの示唆やまた、直接、加害者に聞くこともできないという研究上の問題点はおそらく今後も続くという、いわばこの報告はきわめて間接的な研究として位置づけるほかありません。

次に本研究は、日本大学教授小笠原喜康先生を代表とする文部科学省科研費補助金(基盤研究(B))研究テーマ「我が国におけるメディアリテラシーの理論と実践カリキュラム開発研究」の補助金を受けた研究であることをお断りしておきます。加害者がバトル・ロワイアルⅡの影響を受けたという報道をうけて、私は今回の事件を緊急的な問題と捉え、映像の視聴者に及ぼす影響を自らの一つの研究テーマとして設定し、今回の報告をこの事件に関連する調査課題として設定したのです。

末尾になりますが、今回の調査にご協力頂きました、県内の先生方、高校生のみなさま、そして集中講義の大学生ならびに教員採用試験受験希望者のみなさま各位に、お名前を公表することはひかえましたが、ここに記して感謝を申し上げます。

### 【引用文献】

Lavidge, Robert J. & GARY A. Steiner 1961 A model for predictive measurements of advertising effectiveness. *Journal of Marketing*, 25, 6, 59-62.

## 【添付資料】

## 1 「佐世保小6女子殺傷事件について」(教育学部学校教育教員養成課程 2003年度入学 中田香織)

## 佐世保小6女子殺傷事件について

小学校六年生の女子が友達だった女子をカッターで切りつけ殺す、この事件で加害者となった女子は何を思っていたか、私なりに考えてみました。

事件が詳しく捜査されるにつれて、彼女の犯行の残酷さが取り上げられていきます。確かに、この行動は小学生の女子としては想像もできないようなことです。何が彼女を変えてしまったのでしょうか。私が小学生・中学生だった時のことを参考にすると、この歳の女の子はとも自分のことを話したりします。先生や友達、両親などに、自分の気持ちや今日の出来事、趣味や自慢や好きな人のことを話したいのです。話題は限りなくあるはずで、そしてもうひとつは、グループをつくりたがる、誰かと一緒にいたいのです。友達という存在に、過剰なまでの反応を見せます。仲間がいて、自分の存在が見えるというのが、この年頃の女の子だと思えます。

加害者の女子は、バスケ部を辞め、仲間という集落から離脱しました。この時の彼女は、何か自分の居場所となるものを探し求め、インターネットという道に入っていました。そして、被害者の女の子に悪口を言われる……。私が一番思うことは、加害者の女子は自分の思いをぶつける場所がないという悲しい状態だったということです。友達とのつながりを絶たれる、裏切られる、そんな時に、そのつらい思いや苦しめてどうにもならない気持ちを聞いてくれる「誰か」が彼女にはいなかった、もしくはいないと思いついていたのだろうと思えます。腹が立つ、泣きたい、さらには殺したいと思ったことはみんなが一度や二度あるはずで、それを話させてくれる人がいなかったら、人は一人ぼっちだと思いついてしまいます。一緒に怒ってくれる人、笑って励ましてくれる人、共感して泣いてくれる人がいたら、自分の気持ちが伝わったのだと安心できるはずで、

そして、もうひとつ思うことは、加害者の女子自身の“基本となる考え”が普通とは大きくずれていたということです。私もよく、周りから変わった子だと言われます。それに気付いていても、自分の中にある“基本”に従って行動してしまいます。彼女は、怒りという気持ちを強く持ったとき、それを犯罪という行動を起こしてもぶつけないとは思ってしまったのではないのでしょうか。または、自分がここまで出来るということを証明したかったのか。

怒り、悲しみが増え続けて、出口が狭くなり、道がそれているのにも気が付かない、修正してくれる人もいない、殺すことを考え続けたという彼女の“心の基本”となるものが、いつのまにか全くずれていたと思えます。思い込んだら一直線だったという経験は誰もあるはずで、彼女の崩れた“基本”の道を正してあげる環境がなかった、本人に修正させるきっかけがなかったというのが、とても悲しいことです。

加えて、彼女の環境面に目を向けると、バトルロワイヤルの映像を毎日のように見ていた、クラスメイトを登場人物に見立てて小説を書いていたといえます。日常生活の行動からも、“崩れた基本”がうかがえます。目で見るということは一番強い印象を与えるし、彼女は想像する力が並より優れている子どもだったのでしょう。このような異常な生活から抜け出せなくなった時に、誰にも引き戻してもらえなかったという事実も考えるべき問題です。現代には、基本を崩すきっかけとなるものがたくさんあります。そして、さらに子どもは未知のことや、駄目と言われたことに敏感です。社会は、事件が起こってからあわてて対応するものです。すべての人に目を向けるのは無理ですが、自分の身近な人や大切な人の気持ちを考えることは、ひとりひとりが出来るはずで、

私は、加害者の女子の気持ちを考えてきましたが、それは、殺すということに絶対にはやってはいけないこと、あってはならないことという考えに基づいてのことです。犯罪の肯定ではなく、根本となるものを見つけるためです。人は生まれた時にはみんなまっさらな心を持っているのであり、環境や経験によってどんな性格になるか、価値観を持つかが決まっています。よって、加害者の女子のような心はどこかの時期に生まれ、少しずつ蓄積したということです。それを探りたくて、私は今回、いろいろ考えてみました。被害者の女の子も小学生。これからたくさんのお話を学んだり、経験したり、笑ったり出来たはずでした。それを奪ったという重い罪は、加害者の女の子はもちろん背負わなければなりません。後悔をして、苦しまなければなりません。このような事件が二度と起きないために、人間の心をもっと深く考えることが私たちには必要だと思えます。



2 新聞記事「とにかくいなくなって サルに似てる『ムカツ』」(朝日新聞2004年06月12日生活)

10代初めの女の子たちは今、何に悩み、どんな環境に生きているのだろう。親にも、先生にもつかない知れないネットの世界や友達関係、洋服や化粧などのローティーン市場は勢いを増し、彼女らはかつてない刺激にさらされている。小学6年生の女児が怒りを爆発させた佐世保の事件は、特異なケースといえるのか。同世代の女の子たちの本音と、悲劇を繰り返さないための模索を、2回に分けて紹介する。

(子でも取材班)

とにかくいなくなって

サルに似てる「ムカツ」

東京都内の小学5年のリサさん(10)は、学校での一番の悩みは「友達関係」と即答した。

クラスの女子13人は3グループに分かれている。仲間内の人間関係も微妙だ。

1年前、同じグループの子に「わがまま」などと悪口を書かれた紙を回覧された。ショックだった。何でこんなことをするのかと尋ねた。結局謝罪はなかった。その後しばらくの間、今、悩みの種は同じグループの別の子だ。遊びのルールを勝手に変えたり、仲間に入れてもらえないなどつくづく泣いたり。どうして

た子に「脂肪が多いから、机にぶつかっても痛くないでしょ」と言うのも聞いた。それでもつき合うのは「強引で、言いなりにならざるを得ない感じ」。

リサさんが今書いている交換日記は4冊。ほかのクラスの子も含め、四つの交換日記グループに属す。多

い話題は他の女の子のこと。「別の交換日記グループの悪口を書くともある」「陰口を言われて」「相手を殺したくなる」ともあって「とらう。」なども、慰謝料請求されても困るし、後で嫌な思い出になるのもイヤ。「。中学生の兄と相談する。」じゃあ、一緒に殺して行かないか」と冗談を言っている。リサさんは「話しても意味ないもん。うらやまがあるけど、学校染しかなかった」と言う。

3 新聞記事「女の子の友情 ガラスの『糸』」(朝日新聞2004年06月11日オピニオン)


読者 2004年(平成16年)6月11日 金曜日 12版 ▲ オピニオン 12

### 女の子の友情 ガラスの「糸」

主婦 岡田 久美子  
(神奈川県鎌倉市 36歳)

小学5年の頃、私には周りも認める仲の良い友達がいた。彼女と私にはイラストやマンガを描いてガラスの友達に見せるという共通の趣味があった。ある朝、登校すると彼女がけた箱のどこかで出迎えてくれた。にこにこはほほえみ「はいっ」といっしょのマンガのよきな紙片を渡された。開けてみると、そこには「○○(私)の悪いところ」と題して、彼女が考えた私の悪い点が列挙されていた。その日から彼女は私を無視した。引っ込み愚案だった私は、彼女が話しかけてくれなければ休み時間もずっと一人だ。彼女は他の友達と楽しくおしゃべり。学校へ行きたくない! 孤独になんて耐えられない。いつか死んでしまいたい。

2、3日すると、彼女は何事もなかったかのように話しかけてくる。2年間繰り返された彼女の気まぐれ。彼女にしてみれば「そう言えは話して」いなかった。数日だったかも知れない。しかし私には、死への衝動に駆られるほどの数日だった。私たちは対等な友達関係ではなかったのだ。周りには分らなかった。だろ。女の子の友情は、一見しただけでは分からないガラスの糸で結ばれているのだ。



声  
サラサウツギ  
エ・ 柏山淑生

4. 新聞記事「尊い大切な命 分かった上で」(朝日新聞2004年06月12日オピニオン)

2004年(平成16年)6月12日 土曜日 12版 ▲ オピニオン 14



尊い大切な命 分かった上で

小学生 松下 全業 (横浜市 11歳)

私は今朝(2日)、新聞

を読んでも驚きました。私と同年の人が同級生をカッターで切りつけるなんて、私には想像もできないような事件だったのです。

大切な命を奪うのは、どうして怜美さんばかりで、私ばかりではないのか。私には、刃物を切らなければ死ぬという命は、最も大切な命だと思

います。

ことを、殺した少女は知っていたのではないかと、いや、むしろ、そのことを知っていたから、怜美さんの大切で尊い命を奪ったのだ、そう思います。

「命は大切」ということは、私たちがもともと百も承知であるのに、これからは、意味がなくなるのではないのでしょうか。

そんなことを、その大切な命を奪った原因になつた憎しみを除かなくては、親や先生など周りの大人たちがやってくれるのか。その間に何が起きたのか、どうして殺すまで至ったのか、説明してほしいと思

います。

5. 新聞記事「少年事件 心の傷跡深く 姉の手紙に『うれしい』長崎小6加害女児」

(岩手日報2004年07月01日第2社会)

少年事件 心の傷跡深く

姉の手紙に「うれしい」長崎小6加害女児

長崎県の小六女児事件で読んだ。手紙には「戻がっかりしたことがあって、加害者女児(この付添人の追光夫弁護士らは三十日、記者会見し、女児が姉からの手紙を読んだこと、話を明らかにした。女児は六月中旬以降に姉からの手紙を受け取った。手紙には『うれしい』と書いてほしい」などと書かれており、弁護士が感想を聞くと、女児はうれしかった」と話していたことを明らかにした。

長崎県の小六女児事件で読んだ。手紙には「戻がっかりしたことがあって、加害者女児(この付添人の追光夫弁護士らは三十日、記者会見し、女児が姉からの手紙を読んだこと、話を明らかにした。女児は六月中旬以降に姉からの手紙を受け取った。手紙には『うれしい』と書いてほしい」などと書かれており、弁護士が感想を聞くと、女児はうれしかった」と話していたことを明らかにした。

長崎小6加害女児

面会した。両親がジュースとお菓子を差し入れると、女児は「ありがどう」と礼を言ったという。最近の女児について追井護士は「落ち着いていないが、(弁護士側から)事件について質問する」としているという。

面会した。両親がジュースとお菓子を差し入れると、女児は「ありがどう」と礼を言ったという。最近の女児について追井護士は「落ち着いていないが、(弁護士側から)事件について質問する」としているという。